

第4章 教育の最先端の動き：グローバル教育編

「教育の最先端の動き：グローバル教育編」では、中学校・高等学校の最先端のグローバル教育に焦点を当てています。グローバル教育の様々な側面を学校の事例とともにお伝えします。

現代がグローバル化の時代であることに異を唱える人はいないでしょう。情報はインターネットで瞬時に世界中に伝わり、新たなテクノロジーが次々に世界中で生み出されます。そしてコロナ禍で明らかになったように、ある地域で起こることは確実に他の地域に影響を及ぼします。つまり、世界はますます相互に依存するようになっているのです。

しかも、人生100年と言われるような長寿の時代においては、異なるバックグラウンドを持つ人々と協力して働く機会が格段に増えることは間違いありません。地球の資源や環境問題に対する意識もますます重要になっていくことでしょう。

このような時代においてグローバル教育というのは、特別な教育として注目されているというより、むしろ背景として重要になっているのです。

グローバルな視野と多様な文化に対する寛容性

従来型の学力観では、科目の得意不得意がペーパーテストで測定され、集団の中での相対的位置によって自分を規定してしまっていた可能性があります。しかし、多様性に対する寛容な態度を育てるという観点から考えると、順位を競って上を目指すような学びではなく、多様な価値を認め合う学習環境が重要であると言えます。

その点、PBL (Problem-Based Learning) はグローバル教育の重要なアプローチの一つです。PBL においては、現実の社会の問題や課題に取り組む際に、チームでゴールを達成しようという点で、多様な個性が尊重されます。

帰国生や留学生が多く在籍している学校では、PBL を取り入れるケースが多いと言えます。日本の地理は知らなくても、アジアやヨーロッパの国々をよく知っている帰国生が同じクラスにいれば、お互いに教え合いながら、プロジェクト型の課題や探究課題に取り組むことが合理的であることにすぐに気づくはずで、育った環境が異なる者同士だからこそ、チームになる意味もあるわけです。

形成的評価・・・学習プロセスも重視する

多様な生徒に対して評価・フィードバックを行う際には、ルーブリックや思考コードといった多次元の評価軸が必要になります。評価のあり方も、結果だけを数字で見るのではなく、生徒と教員のコミュニケーションを重視する形成的評価が求められるようになります。

桐朋女子では1967年以來、口頭試問を採り入れた独特な入試が行われており、この試験では、教員が受験生と対話をしながら、考える姿勢や未知のことから対応する力を評価しています。同校で

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

は1970年頃までには定期試験や通知表も廃止しました。それは結果だけを返却するということより、むしろ個々の生徒のやり方を一人一人にフィードバックすることを重視したからです。

生徒と教員の間だけでなく、保護者と連携してトライアングルを作り、教員から生徒へのフィードバックが、生徒から保護者に伝わり、その内容を保護者が教員に戻すというシステムを作り出しています。言語技術を重視する同校ならではの独特なシステムです。

海外との交流プログラム

海外との交流を通して、子どもたちは文化の違いや学び方の違いを意識し、グローバルな視野を身につけていきます。相手の文化へのリスペクトや自国文化の良さを再認識することにも繋がります。

1年生 **British Hills** **国内異文化体験**
国内にいるのにまるでイギリスに留学をしているかのような体験ができます。この行事で訪れるBritish Hillsでは、専用のパスポートを使い、入国した時点からすべて英語で生活します。ハリウッドのような世界に触れ、異文化を感じることができます。
7泊3日/1万円程度

3年生 **ニュージーランド** **外国語学研修**
人生で最も多様な時期に、実際に外国を歩いて、見て、人と話して、聞いてみましょう。世界には多様性があることを肌で感じることもできます。また、コミュニケーションで大切な英語力だけではありません、自分が世界で何をやるために身近なことを知りたいと思うことも大切だと気付きます。それは、必ず深い学びにつながります。
10日間程度/35万円程度
希望者は短期・中期・長期海外留学を行うこともできます。大学に進学するための深い学びを授けたい人や、将来海外で活躍したい人にとっては、最適な環境となります。

4年生 **東北方面** **国内修学旅行**
プロジェクトベース型学習を行います。例えば、未曾有の災害となった東日本大震災をテーマとして、事前に現地の方にリサーチし、自分たちができることは何かを考えます。そして、自分たちで作り上げたプログラムを実行します。自国の現状・課題を見つけ、貢献できること何かが問われる活動に取り組みます。
7泊3日/5万円程度

5年生 **海外** **海外フィールドワーク**
海外の様々な大学でサマープログラムなどを行い、現地の大学生・高校生と活動します。また、フィールドワークでは、自らの質疑を現地で多面的・多角的な方面から調べ、確かめます。これらの体験は、世界平和に貢献しようとする態度を養います。
10日間程度/60万円程度

公立の学校でもここまでできる
グローバルな校外行事

異文化・同年代の人たちと
コミュニケーションを図り、
協力して課題解決に取り組む
体験活動を通して、
グローバルな視点を育んでい
きます。

(大宮国際中等教育学校)

そのような体験を大切にしている学校の一つに八雲学園があります。カリフォルニア州サンタバーバラに八雲レジデンスという自前の研修施設を持ち、中学3年の全員がその施設などに宿泊して、アメリカの名門私立学校のケイトスクールの生徒と交流をします。

また、八雲学園はラウンドスクエアという世界中の私立学校が参加する国際的なネットワークに加盟しています。ラウンドスクエアでは、の6つの理念、通称「IDEALS」を共有しています。グローバル教育を体現するネットワークと言えるので、少し詳しく書いておきます。

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

ラウンドスクエアは、国際的な学校のネットワークであり、生徒たちに対して理想的な教育を提供することを目指しています。この組織は、ドイツの教育者であるクルト・ハーンの教育理念に基づいています。ラウンドスクエアは「IDEALS」という六つの柱に重点を置いています

1. 国際理解 (Internationalism): 異文化理解と協力を促進し、グローバルな視野を養います。
2. 民主主義 (Democracy): 意思決定プロセスに参加し、責任と権利のバランスを学びます。
3. 環境配慮 (Environmental Stewardship): 環境への責任を理解し、持続可能な行動を奨励します。
4. 冒険 (Adventure): 自己の限界を試し、リーダーシップとチームワークのスキルを高めます。
5. リーダーシップ (Leadership): 自立心と他者への影響力を育成します。
6. 奉仕 (Service): コミュニティへの積極的な貢献や社会奉仕の価値を重視します。

ラウンドスクエアは、これらの価値を教育プログラムに取り入れることで、生徒たちが世界的な課題に取り組む準備ができるよう支援しています。

ラウンドスクエアでは年に1回、1週間ほどの国際会議が開催されます。この国際会議では、6つの理念を確認し、深めるための重要な機会となっており、各理念に関連するワークショップやセミナーが開かれます。また、自校の活動についてプレゼンテーションを行い、他校の生徒たちとは「バラザ」と呼ばれる対話型ディスカッションをします。さらに、この国際会議の会期中にはチームビルディングやリーダーシップを育むための冒険活動も含まれています。

ラウンドスクエアに加盟している学校は、八雲学園以外にも工学院大学附属、玉川学園、啓明学園があります。

海外の教育カリキュラム

国際バカロレア (IB) の中等教育プログラムである MYP も、グローバルな学び方の一つのモデルを示しています。そのカリキュラムには次のような特徴があります。

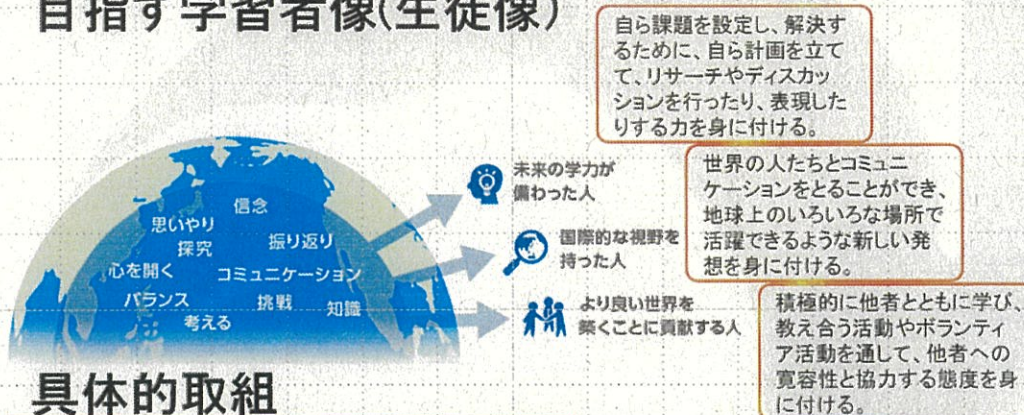
- ・学際的な学び
- ・個人プロジェクト
- ・コミュニティプロジェクト
- ・ATL (学習へのアプローチ) スキル
- ・グローバルコンテキスト

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

中でも ATL (Approaches to Learning) というスキルは、教科共通のスキルとして、学際的な学びを支えるコアとなっています。ATL には次の5つのカテゴリーがあり、それぞれのカテゴリーはさらに細かなサブカテゴリーに分かれて各教科の評価基準に接続しています。

1 コミュニケーションスキル、2 社会スキル、3 自己管理スキル 4 リサーチスキル、5 思考スキル

目指す学習者像(生徒像)



具体的取組



大宮国際中等教育学校資料より

開智日本橋学園では、スキルを評価に明示して、教科はもちろん、ホームルームでも活用しています。その結果、生徒は自分自身の学習プロセスをコントロールし、自己主導的な学習ができるようになります。

IB 以外にも様々な国の教育制度に基づいたプログラムが「ダブルディプロマ」とか「デュアルディプロマ」という名称で、日本で履修可能になっています。

文化学園大学杉並 (文杉) では、カナダ・ブリティッシュコロンビア州 (BC 州) のディプロマが取得できるダブルディプロマコースがあります。全て BC 州の教員資格を持っている先生が指導しており、BC 州の教育省のカリキュラムが組まれています。

カナダは、多様性を受け入れる文化を持ち、子どもたちの個性や才能を授業で尊重し、発展させることを重視しています。このことは、生徒への接し方や生徒の学び方、評価システムなど、教育デザイン全体に大きな影響があります。例えば、化学の元素記号の学習にビジュアルアート (美術) が組み込まれるなど、日本の暗記型の学習とは大きく異なるスタイルで学習を進めています。アウトプッ

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

トのスタイルも言葉によるレポートやプレゼンテーションばかりでなく、絵画やダンスなど様々な形式で表現することが許容されています。

このように、日本の教育が対象の理解に重きを置いた「コンテンツベース」だとすれば、カナダの教育は生徒の資質や能力を重視した「コンピテンシーベース」だということができます。

文杉の教室には、It's okay to make mistakes. (間違えてもいい) とか、It's okay to say "I don't understand". (理解できないと言っても構わない) といった標語が貼ってあります。これも間違えることや分からないということが恥ずかしいことでも何でもなく、むしろそのような態度が奨励されていることが伺えます。海外のカリキュラムで学ぶということは、単に日本の知識の体系とは異なる知識を獲得するということを意味しているわけではありません。学び方そのものも世界標準になっていくということなのです。

英語および第2外国語の習得

世界人口の半数はバイリンガルであると、フランソワ・グロジャンという言語学者は述べています。ここでの「バイリンガル」は、複数の言語で暮らすことが日常となっているヨーロッパの人々や、インドやシンガポールのように公用語を英語としている人々を含んでいます。ここでグロジャン氏が伝えようとしているのは、バイリンガルやバイカルチュラルという概念は、特殊なものではないということです。グローバル化がいつそう進む未来の社会においては、二言語以上を使用して生活することはますます日常的なことになっていくのかもしれません。

スティーブン・クラッシュンという言語学者は、言語習得 (Acquisition) と言語学習 (Learning) を区別し、子どもが母語を習得するのと同じように、自然なコミュニケーションの中で起こる「言語習得」の重要性について言及しています。小さい頃からプレスクールやアフタースクール、そしてインターナショナルスクールに子どもを通わせている方が増えているのは、自然に英語を習得することの重要性を感じているからでしょう。

英語「で」学ぶ

英語「習得」という観点から言うと、多くの情報量をインプットすることが大切になります。英語にどれだけ多く触れられるかが大切なことなのです。もう一つ、英語「で」教科を学習するというのもポイントです。日本語では当たり前と感じている知識でも、英語で表現するとなると途端に苦しんでしまうのが、日本語を介在させた英語学習の弱点です。その点、インターナショナルコースに在籍して教科を英語で学んでいけば、その知識はグローバル教養に変換しやすいということができません。

下記資料はインターナショナルコースを持つ一条校 (抜粋) と、首都圏模試センターで調査したオールイングリッシュの授業数とネイティブ教員の数についてのアンケート結果です。生徒数 (学校の規模) やコース内容について条件を設けていないため、単純に学校同士を比べることは意味はあり

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

ませんが、ここに列挙した学校は、かなり英語に力を入れている学校であることは間違いありません。

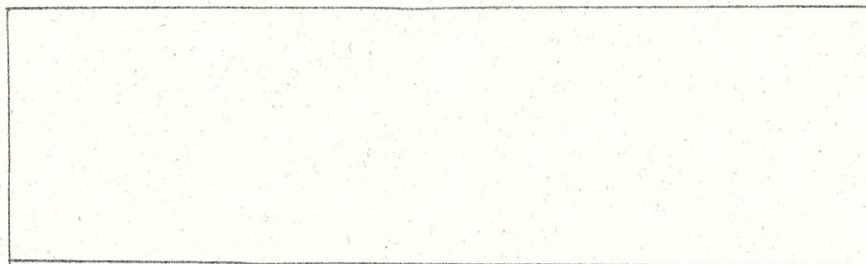
インターナショナルコースとかダブルディプロマと謳っていなくても、英語ネイティブ教員の比率が高い学校は、文化的多様性も含め、グローバル化時代にふさわしい英語教育を実践しているということが出来ます。

オールイングリッシュの週あたり授業数、及び英語ネイティブ教員の数（アンケートより抜粋。順不同）

学校名	オールイングリッシュの授業数	人数
加藤学園暁秀中学校・高等学校	12時間(12コマ)以上	10人以上15人未満
サレジオン国際学園中学校高等学校	12時間(12コマ)以上	10人以上15人未満
獨協埼玉中学高等学校	6時間(6コマ)以上12時間(12コマ)未満	6人以上10人未満
桜丘中学・高等学校	3時間(3コマ)未満	15人以上20人未満
品川翔英中学校・高等学校	3時間(3コマ)未満	10人以上15人未満
日本大学高等学校・中学校	6時間(6コマ)以上12時間(12コマ)未満	6人以上10人未満
広尾学園小石川中学校・高等学校	12時間(12コマ)以上	15人以上20人未満
ドルトン東京学園 中等部・高等部	3時間(3コマ)以上6時間(6コマ)未満	10人以上15人未満
かえつ有明中・高等学校	6時間(6コマ)以上12時間(12コマ)未満	10人以上15人未満
和洋九段女子中学校高等学校	6時間(6コマ)以上12時間(12コマ)未満	6人以上10人未満
神田女学園中学校高等学校	3時間(3コマ)以上6時間(6コマ)未満	10人以上15人未満
佼成学園女子中学高等学校	6時間(6コマ)以上12時間(12コマ)未満	6人以上10人未満
三田国際学園中学校・高等学校	12時間(12コマ)以上	20人以上
北豊島中学校・高等学校	6時間(6コマ)以上12時間(12コマ)未満	6人以上10人未満
実践女子学園中学校高等学校	3時間(3コマ)未満	10人以上15人未満

英語のイマージョン教育

英語を学ぶのではなく
英語で考えさせる「言語の習得」



(大宮国際中等教育学校)
説明する英語のテンポが速い。
スライド投影される素材中の単語も、
ほとんど中1生では習わないはずだ。
しかし、シャワー効果で1年もすれば、
大体ついて来られるようになるという。
これぞイマージョン(没入法)教育。

「言語の習得」の授業で、討議をする
生徒の間に割って入り、アドバイスを
する

英語で他教科を学ぶ1年「EI」で、取り
組み姿勢を論じた後、プリントの問題を
解かせ、質問に丁寧に応じる

海外大学への進学

多様な学び、そして英語による教科学習の先には海外大学を含めた多様な進路があります。PBL や探究型の学びを好む生徒は必然的に大学選びも「やりたいこと」を中心に学部を考えることとなります。国内であれば総合型選抜（AO 入試）となりますし、中には海外の大学を選択する人もいます。

海外大学の入学選抜においては、自分が何者であるか、何を目指している人間なのかという点が特に重視されています。今は海外大学進学に興味がなくとも、例えば短期留学に出かけたことをきっかけに海外の大学に進みたいと思うようになったり、あるいは先輩が海外大学に進学したことを知って自分もその道に進みたいと思うようになったりすることは大いにあり得るわけですから、このような世界標準の学びを意識しておくことは大切です。

経済的な面を心配している方もいるかもしれませんが、海外大学進学を現実のものにするには、ほとんど奨学金を獲得することだと言ってよいほど、多くの選択肢があります。海外大学に多くの卒業生が進んでいる学校というのはノウハウを学校としてたくさん蓄積していますし、実際に留学した先輩が夏休みなどに戻ってきて後輩のために説明会を開いてくれたりしますので、そのような情報に触れる機会も今後多くなっていくでしょう。

海外大学進学はプロジェクト

海外大学進学が、奨学金を獲得できるかにかかっているということはお分かりいただけると思います。ですので受験生の側からすればなるべく多くの大学にアプライし、どの大学からより多くの奨学金が得られるのかということが非常に大切なファクターになります。実際、ある大学から奨学金のオファーを受けてもそれを元に別の大学と交渉し、より高い奨学金を得ようとする強者の受験生もいるぐらいです。

このようなタフな交渉力というのも実はグローバル社会でサバイバルする上で非常に大切なスキルで、海外大学進学はその意味で「プロジェクト」と呼んで良いものです。

右の表は三田国際学園の2022 年度海外大学合格実績の一部です。コロナ禍であったにもかかわらず、総勢で60 名ほどの合格者を出しており、世界大学ランキング50 以内の大学も、UC バークレー、トロント大学、UC サンディエゴ

University of California, Berkeley*	1(1)
University of Toronto	2
University of California, San Diego	1
University of British Columbia	1
KU Leuven	1
McGill University	1
University of Illinois Urbana-Champaign	1
University of Queensland	1
University of Sydney	4
University of California, Davis	2
延世大学	1 (1)
University of Wisconsin-Madison	1
University of California, Irvine*	2 (1)
University of Alberta	1
University of Ottawa	1
Arizona State University	1

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

(UCSD)、UBC、KU Leuven (ルーヴェン・カトリック大学) など、Top50 の常連がいくつも顔を出しています。

ちなみに海外大学進学希望者がランキングを気にするのは、日本の財団系の給付型奨学金を得る条件の一つに世界大学ランキング 50 位以内という目安があるからです。大学が独自に支給する奨学金とは違って、日本の財団系奨学金は給付金額が大きい反面人数の枠が限定されているため、有名大学や難関大学に合格することが大切になってくるという事情があります。先に述べたように、海外大学進学に関しては、自分のやりたいこと、自分らしさをアピールすることが大切であり、ランキングも偏差値とは意味合いが異なることに注意が必要です。

例えば富士見丘でも、今年の海外大学実績はコロナ前の水準を上回るほど好調だったようです(下表)。右に付けている順位は THE (Times Higher Education) が発表した 2023 年のランキングです。日本では

200 位以内に入る大学は、東京大学と京都大学の 2 校のみという現実を知っている人には、いかにすごい結果であるかということが一目瞭然です。

University of Michigan-Ann Arbor	23 位
University of Washington, Seattle	25 位
University of California, San Diego	32 位
Georgia Institute of Technology	38 位
Rice University	147 位
Texas A&M University	181 位
Texas Wesleyan University	
University of Texas at Arlington	
University of Central Arkansas	
University of Nebraska Omaha	
Pacific Lutheran University	

ちなみに、三田国際学園でも富士見丘でも、財団系の給付型奨学金を獲得した生徒がいるとのこと。4 年間分の学費がほぼ全額免除になるので、自分の研究成果を社会に還元しようという気持ちが芽生えるであろうことは容易に想像がつきます。逆に言えば、そのような考えで大学選びをしている生徒に対して海外の大学進学の道は開けるわけです。

奨学金の獲得は、海外進学を現実のものとする上でとても重要なポイントですが、最近では、英米や英語圏以外の大学進学を目指す生徒も増えています。プログラムは英語で提供されていて、なおかつ学費が安いからです。

そのような意味で、例えば先ほどの三田国際学園の合格実績の中に KU Leuven の名前があることなどは注目すべき点です。Leuven は、EU の中心、ベルギーブリュッセルから程近い場所に位置しており、英語プログラムも提供している大学です。学費もイギリス・アメリカに比べると格段に安く、ヨーロッパ各地から学生が集まっています。このように、世界の大学に目を向けると、偏差値競

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

争に明け暮れているのがひどく小さいことのように感じられてしまいます。このようなグローバルな進路指導ができる高校は三田国際学園や富士見丘以外にもたくさんあります。

グローバル市民としての意識と社会貢献

学校教育の役割は、平和で民主的な良き社会を築く担い手を育てることです。日本の社会のことだけでなく、地球規模の問題についての意識を高めていくことが必要です。このようなグローバルシテズンシップ教育は、すでに世界基準のカリキュラムでは以前から始まっています。

例えば、IB では CAS (Creativity, Activity, Service) というコアカリキュラムがあります。CAS は、生徒自身が活動の計画を立て、ダンスや音楽など創造的な活動を行ったり、コミュニティに貢献することを通じて責任感を育てたりする仕組みです。アメリカでも多くの学校でボランティアなどの課外活動を生徒に課して、それを成績に反映しています。

最初は、人から言われて偶然に参加した活動であっても、それを継続していくことで、地域の一員としての意識が芽生え、ボランティアな活動に変容していくことがよくあります。共感することや挑戦することを通じ、地域社会や仲間コミットすることの重要性を学んでいきます。

公立でグローバルな学校は？

名称	都道府県	PYP	MYP	DP
市立札幌開成中等教育学校	北海道		○	◎
宮城県仙台二華高等学校	宮城県			◎
さいたま市立大宮国際中等教育学校	埼玉県		○	◎
筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県			◎
東京学芸大学附属大泉小学校	東京都	○		
東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都		○	◎
東京都立国際高等学校	東京都			○
神奈川県立横浜国際高等学校	神奈川県			◎
山梨県立甲府西高等学校	山梨県			◎
滋賀県立虎姫高等学校	滋賀県			◎
大阪教育大学附属池田中学校	大阪府		○	
大阪府立水都国際高等学校	大阪府			◎
鳥取県立倉吉東高等学校	鳥取県			◎
広島県立広島観智学園中学校・高等学校	広島県		○	◎
香美市大宮小学校	高知県	○		
香美市立香北中学校	高知県		○	
高知県立高知国際中学校・高等学校	高知県		○	◎

国際バカロレアプログラム
を導入する学校

探究活動がグローバルな社会貢献につながる

ローカルな社会にとどまらず、自分の知らなかった世界の現実を見て、その現実に関心を打たれて社会貢献に目が開かれる子どもたちもたくさんいます。このようなグローバル市民としての活動を持続可能

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

にするために、資金調達や交渉力という現実世界でのサバイバル力を磨く必要性も学習していきます。

また、社会貢献が自己肯定感を高めるという側面もあります。順天では、そのような考えが探究活動のベースにあります。そして、社会貢献を持続可能にするための知恵の一つとして「アントレプレナーシップ」を身につけていきます。

アントレプレナーシップは、起業家精神ということですが、単に利益を出すということばかりではなく、ステークホルダーに出資を募ったり、資金調達の仕組みを構築したりすることで、社会貢献活動をより効果的にしていく発想力や協働力を必要とします。

ミドリムシが大腸菌を減少させる性質を利用してアフリカの汚染された水を飲み水にしようとか、カカオハスクを利用して消臭剤を作り、児童労働を解決するなどといった探究活動がポスターセッションなどで発表されています。探究活動を通して日本学術振興会が交付する「科研費」を獲得する研究発表もあったようです。

このような活動は年に1回のグローバルウィークなどでも共有され、順天のグローバル教育の核となっています。実際、順天を卒業して国立大学の医学部に進学したある生徒は、ザンビアの医療施設が十分に整っていないことを解決しようと、仲間を募り、資金を調達して、何年にも及ぶ継続した活動の末に、とうとうザンビアに診療所を完成させました。医学部での勉強や研究、そして医師国家試験の準備など、忙しい毎日を過ごしながら、こういうプロジェクトを成し遂げる力というのは、中高時代のグローバル市民教育によって育てられたのでしょうか。

クリティカルシンキングとシステム思考

グローバル化が進む世界で生きていく上で、社会貢献やグローバル市民という概念がますます重要になってくるでしょう。社会貢献は、アクションを起こすことで、自分が無力な存在ではないことを感じるきっかけを与えてくれるかもしれませんし、あるいは自分の想像を超えた環境に苦しんでいる人々がいるという現実からクリティカルシンキングを発動し、さらにグローバルイシューの多くは、システムが複雑に絡んでいることに打ちのめされる経験を得ることなのかもしれません。

このような体験が人間的にも思考力としても人を成長させる契機となることは間違いありません。学校教育が受験勉強の技術獲得の場になってしまうのは、教員が生徒と「人」としての関係を構築できていないということなのかもしれません。社会貢献を数値で評価するのは難しいですが、リフレクションやお互いのフィードバックによって、自分たちのアクションを検証しながら、より大きな集団やより広い地域への想像力を持つことが、これからのグローバル教育の鍵となるのでしょうか。先ほどの湘南白百合学園の先生が卒業生のことを「人としてリスペクトする」と発言されたのは、グローバル教育の大切な本質なのかもしれません。生徒も先生も学習者として対等であるという前提、まだ学びの途上にある者同志がお互いをリスペクトしながら持続可能で平和な世界を築き上げるということがグローバル教育の目指すところとなるのです。

黒畑勝男（関東学院六浦中学校・高等学校校長）グローバル教育インタビュー

グローバル化教育の必要性はこれまでとは違う理由から

これまでとは違う理由で、グローバル化教育を考えるべきと考えています。5年後から人口が減少し始めると予想されていた日本。その前倒しの人口減少で経済規模も縮小していきます。10年後のGDPは20%以上の減少になるという予想（国際戦略問題研究所の津田慶治氏）もあります。

日本は国の内外で、あらゆる面でこれまで以上のグローバル化で生きていかねばなりません。国の活力を保つためにも、個人の生きる力の確保のためにも、グローバル化への対応力の教育がこれまで以上に重要でしょう。

2022年の出生数がついに80万人を割り込んだというニュースは衝撃でした。今の22歳と比較すると約3分の2です。6月3日には出生率が1.26というニュースも流れました。世界の先進国のほとんどで出生率の低下が進んでいますから、出生率が群を抜いて低い日本は確実に人口縮小に向かうでしょう。政府が出生率の回復を目指して政策を打ち出していますが、年月のかかることです。来年、再来年に社会が変わるわけではありません。

これからの世代である中高生は、人口が減っていく社会の中で自己実現を考えていくわけです。ですから、減少していく現実を眺めて社会の変化を予想し、変化の中での働き方や生き方を考えることが大事です。そのためにどういう力をどうやって付けるのか…を冷静に、しかし、これまでの考え方に照らしてみれば大胆と思えることでも、考えてみるべきでしょう。

予想すべき国内の就労環境の変化

国策でのインバウンドの「留学生30万人計画」（2008年）が始まって15年。コロナ前の2019年度で留学在学者（母国の高校以上を卒業して日本に留学している学生）が30万人を越えました。一方で、日本の子どもたちのためのプログラムは小さいものです。これまでの大人が経験してきた社会の変化以上に大きな変化にさらされる中高生にとって、グローバル化への対応力の育成はかつて以上に必要なのに、例えば、「トビタテ！留学 JAPAN」は、留学生30万人計画に5年遅れて2013年に決定され展開されてきていますが、30万人計画と比べると規模も全く小さい。中高生は、自分たちを待つ未来を考えることが本当に大切です。

政府の最近の政策を、自分に関わる事として読み解くことが大事です。それは入国管理法の改正です。3つ挙げてみます。

1つ目は、国内の就労者に、「中核外国人材」と呼ばれる人々の増加が見込まれること。2019年春に入国管理法が改正され、日本の高等教育機関を卒業（修了）して日本に就職する「中核外国人材」の就職分野制限がほぼ撤廃されました。また、在留ビザの継続も易化しました。これによって、卒業（修了）後の就職希望者の在留許可を30%から50%に増やすという見込みです。現に、2019

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

年度の卒業（修了）後の進路は、日本国内での就職は 35.6%、国内での進学は 25.3%（日本学生支援機構の調べ）です。

2つ目は、2023年2月に政府が決定した「高度外国人材」の獲得の方針です。世界各国は高度外国人材の獲得によって自国の産業を支え活発化させる動きがあり、日本もそれに対抗するためとしていますが、高度な専門職として入国就労が認められ長期在留の許可も容易になるという改正です。日本は少子化の進行で高度外国人材の受入れを加速しない理由がありません。これまで日本型雇用で主流だったメンバーシップ型が、今年はジョブ型雇用が急増しました。

3つ目は、いま、政府が検討中ですが、熟練外国人の在留資格の緩和です。外国人労働者を受け入れる「特定技能」という「在留資格制度」での「2号」が職業のほぼ全領域で認められます。「特定技能2号」者は即戦力の「労働者」で、長期の滞在、家族の帯同が認められます。在留年限と就労の制限が厳しい「技能実習生」ではありません。即戦力の求人が広く国際化できることになりました。まさにこれもジョブ型雇用でしょう。もし、国内で経営が完結する分野の事業ならまだしも、海外との取引に関係する分野でなら、出身国のメリットが仕事に生きるわけですから、ここでもポスト競争でのグローバル化が進むと考えるべきでしょう。

特に、この3つ目は、日経新聞第一面の報道で詳しく取り上げられていました。「国は期間限定だった外国人労働者の受け入れを、永住に道を開く長期就労型に転換する。」「国立人口問題研究所によると、2020年で約7500万人だった15歳～64歳までの生産年齢人口は2050年に約5500万人まで減る。…ワタミの渡辺美樹会長兼社長は『（長期就労拡大で）店長やマネージャークラス働いてもらえる。大きなプラスだ』ととらえる。」とありました。

人口減少による人材の確保で、高度外国人材、中核外国人材、特定技能人材、それぞれの層で実質的永住化が進みます。実質的に就労適性を担保した移民政策であるという見方もできるわけです。

関東学院六浦中学校・高等学校は、生徒が在学中にいろいろ考え、いろいろチャレンジし、いろいろ経験できるプログラムや機会を準備しています。卒業後の進路選択に力強く役立つ英語力、コミュニケーション能力を育成するカリキュラム、アメリカの高校卒業認定が与えられるDDPなどのオプション・プログラムも持っています。そして、選択制グローバル研修や日常の学びでの様々な取り組みは、人口縮小の社会に向かう備えのために視野を拡げ、新しい気づきや発見を学びの動機にすることを狙いとしています。

(…ただし、その学びは、決して利己的ではなく、キリストの語りかける「自分を愛するように隣人を愛する」精神の上に立って、学びとして義とされ意味を持つ学びです。)

届けたいメッセージ

関東学院六浦中・高は「近未来を想像し、10、20年後に動くことができる力を付けること」の重要性を説き続けてきました。その理由は、何よりも人口減少と社会の変化への着目です。そして、そ

4. 教育の最先端の動き：グローバル教育編

の重要さが2022年の1年間の日本国内の出生者数から明らかになったように思います。出生数は80万人を割り込みました。今、22歳は約118万人。22年後の22歳は今の3分の2になります。2017年の厚生労働省の人口動態推計値から生産年齢人口の減少が10年ほど前倒しになります。総人口では5年後から毎年100万人単位で減るという推計はすでにあります。中高生はその時に何歳で、社会の新しい局面にチャレンジできる力はどんな力だと考えるでしょうか。今できることは？今すべき選択は？

日本の社会は、国力の維持でも徐々に厳しい局面に向かっています。政府はいよいよ真剣に少子化の対策に乗り出しましたが、中高生がこの先20年間の激動の中を生きていくことには変わりありません。自分で先見的に備える必要があります。日本が生き延びるために、そして自分が日本で生き延びるために、ますます進む国内外でのグローバル化の進行とAIとロボットの浸透の中で「生きる力」を付けることが大事です。

天気予報で台風と聞けば人は備えをします。しかし、人口減少と聞いて教育で何かを備えようとしているのでしょうか。未来の社会観が大事なのに、将来を眺めるにも視野が広がらず、今までとあまり変わらない勉強観での学習、そして進学観。進路の選択を遠くに焦点を合わせてみる必要があります。この2、3年の入学生を見ていると、そういう観点や動機から本校を考えたという家庭が増えてきました。

六浦中・高の教育改革は、予測も難しい社会の変動を見つめてのグローバル化への教育です。中高の早い時期から進路としてもグローバル化への対応を求めてゆくことのできる教育の諸展開を、従来の大学進学観を包括してパッケージとしてきています。

一年留学

留学中も単位に認められ
留学中の授業料を免除

アウトバウンド留学先

海外の中学校や高等学校、インターナショナルスクールに、2ヵ月～3ヶ月の短期間、留学する制度です。カナダ、マレーシア、オーストラリア、ニュージーランドで実施しています。ある一定期間、海外の学校に身を置くことで現地の文化を感じ、また連続的に起こる「言いたいことを言えない」という経験をすることで、英語力の向上を図ります。1年留学では、男子校・女子校・共学校・公立校・私立校など、様々な学校から選ぶことができます。なお、本校で1年間の留学をする場合には、留学中の本校の授業料を免除していますので、経済的にも参加しやすい制度を取り入れています。

カナダ		マレーシア	
期間	ターム留学、1年留学	期間	ターム留学、1年留学
学校	オンタリオ州ダーラム地区エイジャックス・ホイットビー・ピカリングなど	学校	REALインターナショナルスクール
留学形態	ホームステイ先から通学	留学形態	REALインターナショナルスクールドミトリー（寮）から通学
参加資格	中学3年～高校2年	参加資格	中学3年～高校2年

オーストラリア		ニュージーランド	
期間	ターム留学	期間	ターム留学、1年留学
学校	クイーンズランド州立校、メルボルン私立高校	学校	クライストチャーチガールズハイスクール、ティマルボーイズガールズ、カンブリッジ
留学形態	ホームステイ先から通学	留学形態	ホームステイ先から通学
参加資格	クイーンズランド州立校中学2年～高校2年・メルボルン私立校：中学3年～高校2年	参加資格	中学3年～高校2年

関東学院六浦中学校・高等学校（神奈川県より）

第5章 教育の最先端の動き：入試選抜編

「教育の最先端の動き：入試編」では、中学校及び高等学校における入試制度の最新トレンドを解析します。特に、評価軸の変化が如何に入試プロセスに影響を与えているか、また、これらの変化が生徒にどのような影響をもたらすかを探求します。

大学入試のあり方

アドミッション・ポリシーにおいて、**抽象的な「求める学生像」だけではなく、**
入学志願者に高等学校段階までに
どのような力を培うことを求めるのか、
そうした力を**どのような基準・方法によって評価・判定するのか**
などについて**可能な限り具体的に設定する。**

◎各大学の特色等に応じて具体的な評価・判定方法や要素ごとの評価・判定の重み付け等について検討の上、それぞれについて適切に評価・判定するよう努める。

文部科学省資料より

大学入試のあり方に関する検討会議(第27回)3.6.22
大学入学者選抜関連基礎資料集 第4分冊 制度概要及びデータ集関係

中学入試における新タイプ入試の広がり、大学入試の変化を反映しています。かつては教科型の入試が主流であった大学入試も、グローバル化、情報化社会の進展、職業世界の変化に伴い、学生たちの多面的な能力を評価する必要性が高まりました。これにより、大学ではAO入試（アドミッション・オフィス入試）や推薦入試が拡大し、学生の個性や多様な能力を重視した選抜が進んでいます。この流れは中学入試にも影響を与え、従来の学力試験だけでなく、思考力、表現力、協働する力などを重視した新タイプ入試が導入されるようになりました。

具体的には、新タイプ入試では、求められる力として、思考力、判断力、表現力、協働力などが挙げられています。これらの力は、現代社会で成功を収めるために必要不可欠なスキルとされており、教室でのICTの利用や幅広い教育プログラムの中で育成されています。また、SDGsへの意識高揚など社会的な要因も、子供たちに広く深い視野を持たせる教育へと移行させています。

2025年以降の中学入試(⇒大学入試)のあり方

教科型(4科・2科)入試

適性検査型(非教科型)入試

2025年以降の大学入試

2025年以降の中学入試(⇒大学入試)のあり方

すでに大学入試の半分以上が推薦・総合型選抜に！

国公立大学はやがて定員の半数を推薦入試に！

進む私立中高と多くの大学の教育提携・連携

早稲田大学：一般入試の定員比率を70⇒40%に

5. 教育の最先端の動き：入試選抜編

中学入試に広がる新タイプ入試

中学入試というと、国語、算数、社会、理科を軸にした教科型の入試が一般的でした。しかし近年は、それとは一線を画した「新タイプ入試」と呼ぶ非教科型の入試が広がり多様化しています。偏差値という“ものさし”とは異なる評価軸の選抜方法として、以前に比べ肯定的に受け入れられている印象さえあります。この変化の背景には、求められる力と学び方の変化が並行して進んでいる状況が伺えます。

首都圏の半分の学校が導入

注目される「新タイプ入試」は、こんなに種類が豊富！

入試タイプ	入試の概要
適性検査型入試	公立中高一貫校の「適性検査」に似た形式やコンセプトで、知識の多寡や正確さではなく、問題文中に提示された情報や図・表・グラフ・地図などの情報を読み解き、自分の持つ知識と結び付けて、その場で考え、自分の言葉で表現する力が問われる入試。首都圏では約130校が実施。
総合型入試	教科の枠組みを超えて、あるテーマについて総合的に考え、自分の考えや解答を導き出す「教科横断型」「会科型」の入試。光華女子学院の「総合型入試」などが代表的。
記述・論述型入試	コンセプトは「総合型入試」に近く、自分の意見や考えを記述・論述させる解答形式が中心。共立女子の「会科型論述入試」などが代表的。
思考力入試	既習の知識を問うものではなく、提示された課題に対して、論理的な力や、さらに創造的な力までを問う。中学入試ではまだ少数派ではあるが、今後の大学入試で求められる力につながる発想力、創造力が試される。
自己アピール入試 (プレゼン型)	受験生本人が、小学生時代までに打ち込んできた習い事やスポーツ、芸術、好きで取り組んできた研究・観察の成果などの活動歴・学習歴や、中学入学後もがんばっていきたいことを、自分の言葉と表現方法でアピールし、それを支えてきた意志や継続力、集中力を評価してもらえる入試。
英語入試	帰国生入試に限らず、国内の生活のなかで学び、身につけてきた英語力が試される入試。「国・算+英語」の筆記試験という形式が最も多く、多くは英検3～4級レベルの内容だが、人気の高い難関校では、英検準1級レベルの入試になることも。なかには筆記ではなく、英語インタビューや英語インタラクティブ(グループワーク)などの英会話形式のものもある。

中学入試での多様な評価基準
の新タイプ入試

「求められる力」とは、思考力、判断力、表現力、協働する力などです。また、小学校の授業では、英語やプログラミングが必修科目となり、ICTの活用、課題を発見する力と解決する力を身につける学びが進んでいます。SDGsを切り口にした身の回りの課題への取り組みにも積極的です。大人が考える以上に、子どもたちは世界を見ています。また好きなことや「なぜ」という素朴な疑問、自分ではない誰かのことを思いやる想像力も持っています。

こうした教育の変革は、自ずと入試にも変化をもたらします。入学後の教育と入試のつながり 新タイプ入試は、「発想力」「表現力」「プレゼン力」「思考力」「協働性」「問題発見力」「問題解決力」「分析力」「粘り強さ」「積極性」などの観点で採点しています。ハピネスクリエイターの育成を標榜する新渡戸文化中学校の「好きなこと入試」は、「困っている人を助けたり、誰かを笑顔にしたりするなど、社会に役立つ観点が入っている」ことが評価点にあります。学校や入試によって

5. 教育の最先端の動き：入試選抜編

は加点法も採用されますが、数値化しにくい選抜方法であることは間違いありません。それでも中学入試で確かな存在感を放っているのは、一体、何故でしょうか。

新タイプ入試を担当している中学校の先生から、入試中に子どもたちは成長すると言う声を聞きます。また、入試で発揮された資質を備えた生徒は、学びに向かう姿勢や自己肯定感が高いことも指摘されます。

PBL型授業を全教科で行っている和洋九段女子中学校は入試にもPBLを導入して2023年が5年目です。その「PBL型入試」について新井誠司教頭先生は、「入試中にインプット、アウトプットを繰り返すので、受験生は学びの楽しさに気づきます」と話します。山脇学園中学校の「探究サイエンス入試」の入学生は、教科活動や部活動で、科学に限らずいろいろなことに興味関心のある生徒が多く、挑戦する意欲も高いと言います。現在中学3年生のサイエンス入試初年度からの入学生には高校でのサイエンスクラスを志望し本格的に始まる研究活動に胸を膨らませている生徒もいるとか。担当の先生は、「女性理系研究者への道を歩んでいくことになる手ごたえを感じている」と語ります。清泉女学院中学校は、アカデミックポテンシャル入試（算数1科目）の結果に意を強くし、数学的「取り出し授業」を検討しています。

新タイプ入試は実施数が増えるだけでなく、教育プログラムや学校の理念を反映するべく各校が工夫を凝らします。

2023年入試では、東京成徳大学中学校が「Distinguished Learner 選抜入試」を新設します。受験しながら成長してほしいと、課題に対して作成した解答（企画書）も入試中に添削を受けたりグループ討論を行ったりするとしており、評価軸に「主体性」「創造性」「チャレンジ精神」を据えたルーブリック（採点基準）を公表しています。

帰国生入試、教科型入試（1科目、得意科目選択型、教科横断型などバリエーションが多い）、新タイプ入試など評価軸の異なる入試を行うことで、学校の中に、ダイバーシティとインクルージョンがもたらされることも、見逃せないポイントでしょう。

【新タイプ入試：コンピテンシー入試】

横浜創英中学校は、教育改革の一環として「コンピテンシー入試」という新しいタイプの試験を導入しました。この試験は伝統的な学力だけではなく、受験生の多様な能力や潜在力を評価することを目的としています。元麴町中学校の工藤勇一校長のもと、中学校は子どもたちの自立心、対話能力、創造力を育成することを目指しており、入試もそのコンセプトに基づいた内容が採用されています。

「考えて行動のできる人」の育成(横浜創英中高)

創英 3つのコンピテンシーと9つのスキル

3つのコンピテンシー「自律・対話・創造」を会得するために、本校では、卒業までに生徒に身につけてもらいたい具体的な能力として「創英9つのスキル」をあげています。

自律 自ら考え、判断し、決定し、行動する

対話 多様性を尊重し、対話を通して対立・ジレンマを解決する

創造 問題を解決するために情報や技術等を活用し、新たな価値を生み出す

コンピテンシー入試には二つのセクションがあります。一つは「プレゼンテーション入試」で、もう一つが「グループワーク入試」です。

「プレゼンテーション入試」では、受験生が自らの興味や得意分野を5分間のプレゼンテーションを通じて表現します。受験生は自分の趣味や特技に関してこれまでに学んだこと、それを如何に学校生活で活かすかを伝える必要があります。これにより、受験生の個性や独自の考えをもつ力、将来的な貢献への意志を評価することができます。

「グループワーク入試」では、受験生が現実の社会問題に基づいた課題を解決するプロセスを通じてその協調性や問題解決能力を評価します。与えられたテーマについてグループで討論し、解決策をプレゼンテーション形式で発表します。この入試では、受験生のリーダーシップ、チームでのコミュニケーション能力、共同作業能力が重視されます。

日常生活をどのように過ごしてきたかが問われる

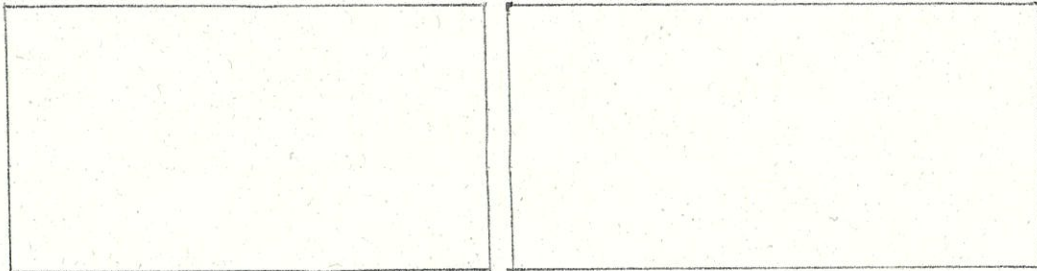
プレゼンテーション入試

これまで継続して自主的に取り組んでいたこと・好きなことで自分の自信につながっていることや入学後の学校生活でそれらをどのように活かしていくのか、ということを発表する入試。

グループワーク入試

社会課題を表す写真や記事から、問題点を理解し、その解決策を考えてチームで発表する入試。
(1グループ4～5名)

横浜創英コンピテンシー入試



この二つのアプローチは、受験生の学びや社会への適応能力を測るものであり、従来の知識中心の評価から一歩踏み出した方法と言えます。学校側はこれらの能力が将来的に社会貢献に繋がる重要な要素であると考えています。

試験当日は、受験生が互いにコミュニケーションをとりながら積極的に課題に取り組む姿が見られました。この試験形式は、受験生自身にとっても自己理解を深め、将来何を成し遂げたいかを考える良い機会となるでしょう。また、受験生は自分の意見や考えを明確に表現し、他者と協力しながら問題解決に取り組む能力が求められます。

横浜創英中学校の入試は、単に知識の評価を超え、受験生の潜在能力や社会に対する意識、他者と協力して成果を上げる能力を重視しています。教育の目標とする「自律・対話・創造」の実践として、具体的なスキルや能力を評価する試験内容が設計され、これが将来の教育改革の方向性を示唆しています。

今後、このような入試がさらに発展し、多くの学校で取り入れられる可能性があります。それによって、学生の多様な能力が評価され、一人一人の個性や才能が社会に対してより良い形で貢献できるようになることを期待されています。

横浜創英中「コンピテンシー入試」

小学校
課題解

24

「プレゼンテーション入試」or「グループワーク入試」選択

聖学院中学校「ものづくり思考力入試」

協働的思

思考力テ
協働振り

24

【新タイプ入試：ものづくり思考力入試】

聖学院中学校は、思考力を重視した多様な入試方式を導入しています。2024年2月1日に体育館で行われた「ものづくり思考力入試」は、57名が出願し、56名が受験しました。これは、レゴブロックを用いた創造力と思考力を評価する試験形式で、聖学院の教育哲学を反映しています。

入試は「思考力」と「協働振り返り」の二部構成で行われ、最初に80分間の個人作業としてレゴブロックを使った問題解決のセッションが設けられます。受験生は、与えられた環境問題に関連する資料を参照しながら、レゴを使用して具体的な作品を作り出し、その過程で出された多角的な問いに答えます。この部分では、脱プラスチックをテーマにした環境問題が取り上げられ、問題の「つながり」と「複雑性」を理解することが求められます。

以下、試験の構成と内容について詳しく説明します。

試験の流れ

1. 思考力試験（80分）

- ・受験生はレゴブロックを利用して与えられた問題に取り組み、自らのアイデアを形にします。
- ・問題帳と一緒に提供される環境に関する資料を参照し、指定された問題に対して解答を構築します。
- ・作品の作り方が評価されるのではなく、問題解決の過程での創造性と思考力が評価の中心です。

聖学院中学校「ものづくり思考力入試」

【ブロック表現・文章表現】「創造的思考力」を問う

あなたが小学校生活の中で過ごしたランドセルとの思い出を、情景がわかるように**レゴブロック**で**作品を1つ**作ってください。

もしもあなたがランドセル使ったことがない場合、ランドセルを中心とした友達との関わりでも構いません。

また、その様子を**100字程度**で説明してください。

「誰だれと、いつ、どんな思い出か、どんな気分だったか」を入れると説明しやすくなります。

5. 教育の最先端の動き：入試選抜編

2. 協働振り返り (30分)

- ・ 作品を完成させた後、グループに分かれて他の受験生と作品についてディスカッションを行います。
- ・ 各受験生が自作を説明し、他のメンバーからフィードバックを受けることで、新たな気づきを得ることが目的です。

評価の観点

- ・ 受験生の「思考力」は、問題解決に向けてどれだけ創造的で実用的なアイデアを展開できるかで評価されます。

聖学院中学校「ものづくり思考力入試」

評価体制

受験生一人あたり5名以上で評価

一人の採点官によって解答の解釈が偏ることもなく客観かつ公平な審査が行えます。

●ルーブリック

	評価項目	評価段階				
INPUT	情報の読み取り・聞き取り	1	2	3	4	5
	人の話を聞く姿勢	1	2	3	4	5
	教養・知識活用	1	2	3	4	5
THINKING 協働性	課題発見力・探究度	1	2	3	4	5
	発想・創造力	1	2	3	4	5
	論理性	1	2	3	4	5
	粘り強い思考	1	2	3	4	5
OUTPUT リフレクション	協働性・他者理解	1	2	3	4	5
	言語表現(作文)	1	2	3	4	5
	ブロック・非言語表現	1	2	3	4	5
	振り返る力・客観性	1	2	3	4	5

●評価段階と評価基準例【情報の読み取り・聞き取り】

評価段階	評価基準
1	情報を1つは抽出できている
2	情報を複数抽出できている
3	複数抽出できた情報を比較・分類できる
4	複数抽出できた情報を比較・分類し、統合的に解釈することができている
5	述べられた理由や根拠に適切な具体例や体験が盛り込まれており、説得力のある説明ができている

- ・ 「協働振り返り」では、受験生がどれだけ積極的に他の意見を取り入れ、自身の考えを進化させることができるかが評価されます。

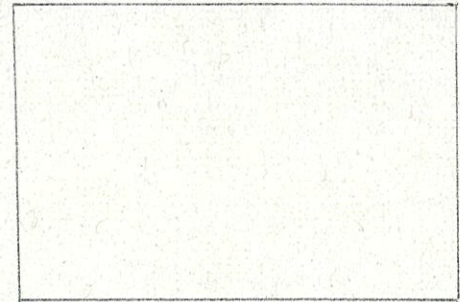
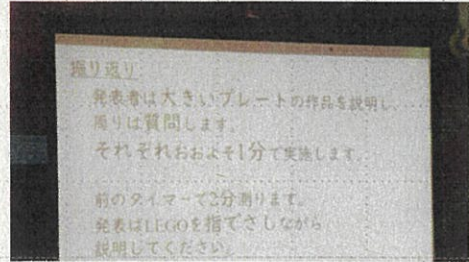
聖学院の思考力入試は、伝統的な学力試験とは一線を画し、受験生が未来の問題解決者として求められる能力、すなわち創造力、協調性、批判的思考能力を育むことに焦点を当てています。これにより、学ぶことの楽しさと、問題解決に向けた協力の精神を学んだ受験生は、充実感を持って試験を終えることができます。聖学院中学校の入試は、これらのスキルを持った子供たちにとっては特に適した選択肢と言えるでしょう。

聖学院中学校「ものづくり思考力入試」

【共有・振り返り】「客観性」を問う

①他の人の意見を聞いて気づいたことは何ですか？

②自分の解答を修正するとしたらどこをどのように直しますか？



以上、社会の変動を踏まえた教育の目的と手法に関するレポート【第一部】として「教育における不易流行とその最先端の動きに焦点を当て、5年後に向けた学校のあり方」を探求しました。

教育という持続的な旅は、常に変化と進化の連続であります。本調査報告書が、神戸市の教育の発展の一助になれることを願っております。